

日 時	令和5年12月22日（金） 10:00～12:00	場 所	勝山公民館 第1研修室
委 員	横山眞佐子委員、宮川雅美委員、田中仁委員、富永順子委員、梶山正迪委員、伊原宗信委員、中川浩一委員、横尾和憲委員、肥塚陽子委員、山本正俊委員、池内賢二委員、若松佐織委員、河崎圭治委員、雫石桂一委員、森永 香委員、永島昭雄委員		
事務局	山田部長、野坂部次長 米崎子育て政策課長、魚住課長補佐、林課長補佐、里主査 齋藤幼児保育課長、白石課長補佐、原課長補佐、栗原部次長（こども家庭支援課長）、小田主幹 大園保健部参事（健康推進課長）、木村福祉政策課長、岡部生涯学習課長		
資 料	・送付後の主な変更箇所一覧 ・“For Kids”プラン2025の策定に係るアンケート調査概要（前回2020との比較） ・調査票1（案）から調査票4（案）の 全4部		

事務局 （魚住補佐）	お待たせしました。 本日は大変お寒い中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第2回下関市子ども・子育て審議会を開催いたします。 それでは、本日の資料について、ご確認させていただきます。 審議会次第、委員名簿及び座席表、また調査票案につきましては先週末に委員の皆様へ送付させていただきましたが、時間の都合上反映できてない修正箇所等がございましたので、修正した最新のものを机の上に配布しております。修正した箇所につきましては、簡易なものを除き、主な修正箇所一覧にまとめておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。 こちらが送付後の主な変更箇所一覧、それと、“For Kids”プラン2025の策定に係るアンケート調査概要（前回2020との比較）の修正版、調査票1から調査票4案の修正版、全4部、加えて本日の資料ではございませんが、前回の審議会会議録の確認のお願いを入れております。こちらは、お忙しいところ恐縮ですが、訂正等ございましたら、1月12日までに子育て政策課までご連絡をお願いいたします。以上ですが、大丈夫でしょうか。 それでは開会にあたり、こども未来部長 山田から皆様にご挨拶を申し上げます。
山田部長	皆さん、おはようございます。こども未来部山田でございます。 本日、年の瀬も押し迫った、また本当に一番の寒さの中お集まりいただき、誠にありがとうございます。 さて、2023年ももう残り10日となっておりますけど、今年は下関市の子育

	て支援の強化に推進するスタートの年となっております。 10月1日から、子ども医療費助成制度、これを拡充しまして、小学生中学生の医療費の自己負担分を全額助成し、乳幼児から中学生まですべての子どもの医療費の完全無償化を実現しております。 また同じく10月1日から、病児保育予約システム「あずかるこちゃん」の運用を開始しております。さらに11月1日から母子健康手帳アプリ「ふくふく母子モ」を導入するとともに、同じく、しもまちBABYタクシー事業、これは妊産婦の方を安心安全に、研修を受けたタクシードライバーがかかりつけの病院までお運びするという事業も始まっております。 今後ますます子育てしやすい環境づくりに努めて参りたいと思います。 なお、本日は、前回の審議会の席上でもお伝えした通り、“For Kids”プラン2025の策定に向けたアンケート調査を実施しますので、それに先立ち、アンケート内容、アンケート項目の確認を皆様に審議していただきたいと思っております。 本当にお忙しい中お集まりいただきまして申し訳ありませんが、この計画後1年、時間をかけてじっくり作り込んで参りますので、まだ先が長いですが、皆様には、専門的な立場から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。 本日はどうぞよろしくお願いいたします。
事務局 (魚住補佐)	続きまして、次期計画である“For Kids”プラン2025につきましては、新たな計画が加わるため、こども未来部以外の関係課の職員も出席しておりますので、委員の皆様にご紹介いたします。
	【関係課職員紹介】
事務局 (魚住補佐)	これより先の進行につきましては、会長にお願いいたします。 会長よろしくお願いいたします。
会長	皆さん、寒い中、ありがとうございました。 ただいまから、令和5年度の第2回目の下関市子ども・子育て審議会を始めます。 最初は事務局の方からの出席状況をお願いします。
事務局 (魚住補佐)	本日は委員総数16名のうち16名、皆様のご出席をいただいております。 過半数以上の出席がありましたので、下関市子ども・子育て審議会条例第6条第3項の規定により、会議が成立ということを報告いたします。
会長	ありがとうございました。 今日の進行については、今お手元になっているお配りしている次第に沿って、進めていきます。最初の議事について“For Kids”プラン2025のアンケート調査を実施するためのということで、事務局の方から、説明をお願いします。
米崎子育て政策課	子育て政策課の米崎でございます。

長	“For Kids” プラン 2025 の策定に係るアンケート調査の実施についてご説明いたします。 今回実施するアンケート調査の概要について簡単にご説明いたします。 お手元に配布しております、“For Kids” プラン 2025 の策定に係るアンケート調査概要（前回 2020 との比較）、調査票 1 から 4 まで、すべて右上に修正版と記載のあるものをご覧ください。 調査票は、対象者別に 4 種類ございます。調査時期は、令和 6 年 1 月中旬から 2 月初旬までの間を予定しております。 まず、はじめに調査票 1 でございますが、これは、『子ども・子育て支援事業計画』、『子ども・若者計画』、『子どもの貧困対策推進計画』に関する調査でございます。対象者は、前回の調査では、0 歳から 5 歳までの児童の保護者としておりましたが、今回は、未就学児・就学児の保護者とし、サンプル数は 4,000 でございます。基本的には前回の調査をベースとしておりますが、一部修正した主な箇所をご説明いたします。 1 ページの間 4 から間 6 まで、外国に繋がる子どもの調査として国籍の設問を追加しております。次に、8 ページの間 17-6 として幼稚園や保育園などを選択する際の運営主体に関する意識調査を追加しております。さらに、14 ページの間 25、子育てに関する情報の入手先と 16 ページの間 31-1、相談先について、選択できる回答を追加しております。 また、前回は、令和元年 10 月から実施された 3 歳以上の子どもの幼稚園、保育園等の保育料の無償化が実施されたことに伴う設問を設けておりましたが、実施後 4 年経過しているため削除しております。 調査票 1 の最後でございますが、次期計画から新たに加わる『子ども・若者計画』に関する設問として、20 ページ、21 ページの間 44 から間 48 まで、また、『子どもの貧困対策推進計画』に関する設問として、2 ページの間 13、21 ページから 24 ページまでの間 49 から間 55 までを追加しております。 『子ども・若者計画』は、次代の社会を担う子ども・若者が健やかに育成し、社会生活を円滑に営むことができるようにするための支援その他の取組を目的として制定された『子ども・若者育成支援法』に規定される「子ども・若者育成支援推進大綱」を勘案して策定するものでございます。 また、『子どもの貧困対策推進計画』は、子どもの現在及び将来がその生まれ育った環境に左右されることなく、全ての子どもが心身ともに健やかに育成され、夢や希望を持つことができるよう子どもの貧困対策を総合的に推進することを目的として制定された『子どもの貧困対策の推進に関する法律』に規定される「子どもの貧困対策に関する大綱」を勘案して策定するものです。そのため、その目的に沿った設問としております。 続きまして、調査票 2 でございますが、前回同様、放課後児童クラブ利用者の保護者を対象とした調査で、こちらも前回の調査をベースとしており、サン
----------	--

	プル数は1,500でございます。 1 ページの間 7、間 8 として国籍の設問を追加しております。次に 2 ページの間 10、間 11 の入会申請時の状況について、設問に対する回答を下関市の放課後児童クラブ入会時の申請理由と合わせたものに修正しております。 調査票の説明の最後でございますが、調査票 3 及び調査票 4 につきましては、新たに加わる『子ども・若者計画』に関する調査でございます。子ども・若者育成支援推進大綱において、子どもは、おおむね 18 歳未満、若者は、おおむね 18 歳からおおむね 30 歳未満と定義されていることから、調査票 1 で対象とされていない 12 歳から 17 歳までを対象とした調査票 3 及び 18 歳から 30 歳までを対象とした調査票 4 を今回の調査から追加いたしました。サンプル数は、調査票 3、4 合わせて 2,000 でございます。 アンケートの内容につきましては、国が計画策定にあたりあらかじめ必須項目としているものとするものや削除できないもの、また、枚数の制限などがありますので、反映できない場合もありますが、忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございました。 皆さんのお手元には、事前には資料がご配りされていると思います。今の説明や資料を見て、何か疑問なことやご意見とかありましたらよろしくお願いいたします。
委員	中の文章とか文言とかいう前に、とても枚数が多いんですよ。 特に調査票 1 ですが、25 枚もあると、届いたときにちょっと見て嫌になるのではないかと思います。もう少し枚数を少なくするようにはできないものでしょうか。
米崎子育て政策課長	枚数については、どうしても必要な項目などもありなるべく少なくできればと考えておりますけれども、できないところもあります。可能な限り対応させていただければと思います。
里主査	補足で説明させていただきます。 当初は、これより 4 ページ多くございましたが、子育て政策課の担当と市の内部の様々な部署へ照会をかけて、可能な限り減らした結果が今のページ数でございます。 新しい貧困に関する計画などが加わり、例年よりも少しページ数増えてしまったところもあり、それを最小限に抑えたところです。以上です。
委員	こちらのアンケートに関して、前回の回収率ってどのくらいだったのでしょうか。
米崎子育て政策課長	今回の調査票でいうところの調査票 1 は 48.2%、調査票 2 の放課後児童クラブ分は 73.9%です。
委員	ありがとうございます。

	私もこちらを拝見した時に思ったのが、先ほど、副会長さんがおっしゃられたように多いというのが第一印象です。やはり特に未就学児を育てていらっしゃるご家庭はお忙しいので、これを見る時間もなかなか難しいかなと感じました。 そこで、例えばこの無作為に配られるアンケートが郵送で届いたら、何か出さなくてもいいのかなとか、つい忘れちゃったっていうことがあると思うので、例えば保育園、幼稚園に通園している対象家庭には、保育園などから渡してもらったりすると、これ出さなきゃいけないと思って返ってくるのではないのでしょうか。いつまでに出してくださいみたいだったら、出さなきゃいけないという義務が生じて出す可能性があるだろうと、そういう感じがあります。 送られてきて、いついつまでにやってくださいだと、やりたいけど、ちょっと日々の生活に追われて、気づいたら期限が過ぎてしまったっていうことがあります。幼稚園や小学校から、直接渡されると出さなきゃいけないと、ちょっと回収率が上がるのかなと思いましたので、回収率について伺いました。
米崎子育て政策課長	申し訳ありませんが郵送という形になります。今回は枚数も多いですし、若い方はスマートフォンをご利用されていますので、QRコードをつけてスマートフォンからでも回答いただけるようにしております。
委員	調査票1の2ページですが、新規で今回、居住についてがございしますが、これは例えば、URは民間の賃貸住宅になるのですか。URは公団というイメージがあるので、「UR含む」を書いていただけるといいかなと思います。 それから、5ページ目の教育保育事業の利用状況についてですが、6ページの間16-3の「9ページの【参考】学校区の就学前施設」を参考にしてください」ということで、9ページの方には拠点も出ているのです。次のところでも参考にしてくださいっていうのがあるので仕方ないのかなと思うのですが、家庭的保育、小規模な保育施設などからすると各学校区で出ているので、ちょっと保護者が、迷わないかなと思いました。 それから、今度8ページ目ですが、幼稚園や保育園や認定こども園などの教育・保育事業を選ぶときに重視する項目について、8項目の中の、まず5番、「子どもが行きたい施設」というのがあって、これがあるのがすごくいいなと思いました。今回、こども基本法ができて、子どもの主体性であるとかあるいは子どもの参画とか、意見表明、そういったところが表に出てきておりますので、こういうものがあるといいなと思いました。 それから、この「その他」のところでは何が書かれるんだろうと思ったときに、例えば、開所時間っていうのは「延長保育や休日保育など保育機能」とかそういうふうになるんですか。例えば、祖父母の居住地に近いとかっていうのは割と多いですが、これは「居住地に近い場所」ですか。あと、結構多いのが、今日、幼稚園の先生もおられますが、保護者の母園っていう方も結構いらっしゃる

	って、そういう項目もあってもいいかなと思いました。 それから問 17-6 のところで、今回初めての設問で公私を意識する、意識しないということですが、何か意図があるのであれば教えていただければと思います。 あと 12 ページの子育て支援拠点事業ですね。今回、子育て支援センターと広場っていうのを、名前をなくしてしまって、一覧表を見てくださいところに特化されたということです。支援センターに遊びに行くとか、いろいろな広場に遊びに行くって言葉が残っているものですから、保護者には、拠点事業に、拠点に遊びに行くよって、あまりまだ認識されてない用語なので、もしよかったらこれらを残していただいた方が、ありがたいかなと思いました。 それから 21 ページ、ご家庭でお子さんと次のような体験をしましたかということについて。この海水浴、水族館、そのあとキャンプやバーベキューとありますが、例えば、自然体験というのは、キャンプとかになりますか。例えば釣りとか、具体的に書いていただけるとありがたいと思います。また、キャンプは自然体験ですが、バーベキューっていうと、家の庭でもバーベキューになってしまうので、ここはどうなのかなと思いました。 最後に、放課後児童クラブのアンケートの中に、自由記述がないのですが、何か理由がありますか。
米崎子育て政策課長	反映できるところは反映させていただきたいと思います。公私については意識の調査を取るものです。
委員	公私については、特に大きな意図はないのですか。要は、例えば、今後、民間移譲していくとか、公立を少なくして民間に委託するとか、そういう意図があって、このような話になっているのかというのが気になりました。特になければよいです。
米崎子育て政策課長	特にありません。
委員	話が進んでいるところ、基本の基本のところですけども、“For Kids” プラン 2025 策定にあたってのアンケートということですが、2025 に反映されていくための準備ということになりますか。 私、この会議に参加させていただくのは 4 年ぐらいなので、2020 の時の状況がよくわかりません。全体的な基本のところ、これが何でこうなってこうなる計画とか、これがいつ頃にできて、市民とか子育ての家庭に反映されるとか、そういう基本のところの比較がわからなかったのです。 2020 の時がどうだったのかなっていうことで、アンケートの項目数が増えたと言われましたが、新しく国のいろんなことも変わってきている真っ只中だと思うので、これがこうなりましたよ、かわりましたよ、みたいなものが事前にいただけたら、それで比較ができたのですけど。

	確か 2020 の時に無作為に当たったお母さんたちが、なんでこれだけあるのか、何のためにやるんだとすごい文句言いながらやっておられました。それはお母さんたちがアンケートを書いた結果どうなったということがわからないまま、次のサイクルが来て、またこれだけの量となっています。今回はアプリでとなっていますけど、通信費払いながらこれだけの量やるっていうのも、かなりのものじゃないですか。なので、その辺りの負担に対して何もないし、これをやったことでどうなりますよというのをせめて、送られてきた中に、計画が入ってくれば、このように皆さんの子育てに生きていきますよというのがあれば、書く時に書きやすいんじゃないかなというのはあります。 特に若者たちっていうのも、12 歳からもらって、どれだけの量を回収できるか。多分親が無理やり書かせるっていうのもあるでしょうし、年齢層もある、これが生きてきますよ、皆さんの生活が苦しい中、改善するためにいろんなアンケートをとって、政策に活かしていきたいですよというものが、もう 1 枚紙があれば、書く意欲に繋がるかなというのもあります。私もこれを見る度にこれがどこに活きているんだろうとやっぱり思うので、その辺りに答えていただけるものが、とにかく基本の基本ですよ、その辺りがちょっとわからないままの状態なので、わかればいいかなと思います。やる気の問題になるんです。
米崎子育て政策課長	次回の時は対応してまいりたいと思います。 今回 2020 をお配りして、参考にさせていただければよかったのですが、申し訳ございません。
会長	やっぱりこれだけの量のものに回答するというのは、それなりに時間を使うし、その人が一生懸命書いてくださるわけですよ。その気持ちに返せるかどうか。もらったものをそのまま使って、新しい施策を作ったかもしれないけど、それは作る側の問題で、書いた人たちは、そのあとに、私がこのアンケートに答えたことによって、下関の子育てがこんなふうに変ったんだな、書いてよかったと思うような情報がその当事者にきちんと伝わるかどうかです。 前の 2020 の時もこういう冊子ができました、それから、市報にもこのような施策が今度できましたっていうふうになるかもしれないけれど、とても一般的で、このアンケートに一生懸命回答したそのメンバーの人たちには、普通だと何かしてもらって、ありがとうございます。こんなふうにしてもらったのでこんなふうにできました。ありがとうございますと個人的に言われたら、アンケートに回答してよかったと思うのです。 書くときは個人が一生懸命書いて、出した途端にもうそれは向こうの方で、あれを生かしてこんなふうになったよという情報については、自分で好きなように取れということになる。普通そういうふうになるわけですけど、そうすると、せっかくできた新しい施策に、私もこんなふうになったからここに行こうとか、そういう場所があるんだというふうに繋げる。ただ作るだけではなくて、

	現場の子育て中の人に繋げるということをもう少し具体的に考えていくとい いのではないかと思います。行政と一般の方をどういう風に身近にしてい くという問題でもあります。ここだけの問題でないと思います。現実 に子育てして る人がここが変わったんだ、相談できるよねということが、誰でもわかる ようにオープンにするのが大事だと思います。アンケートに回答したら、現 実に子育てをしている自分たちのところに具体的に戻ってくるということがわ かるように工夫したら、下関市全体が、みんなで子育てを支えられていると思 います。 このアンケート、家に来たら、相当大変ですよ。私たちもチェックするの にずっと見ていて、多分 10 分ではできないだろうと。子どもが側で泣いて いる人が一生懸命チェックしていたら、相当大変だから。そんなことも考えて、 作るだけではなく、その次、どうやってサポートするかということを考えてほ しいと思います。
委員	今お話を伺っていて、私は多分 2020 のアンケートに回答したかもしれない なと思い出しました。それこそ、子どもが泣いている横で、はいはいと言いな がら回答したことが、パッとフラッシュバックのように思い出しました。 やっぱりその先の、これがどうなったかも知りたいですし、その前の時点で まず書く意欲を高めるために、前回のアンケートの結果で、これができた みたいに、その成果があって、こういったものができたので、次はあなたの番 です、みたいなふうな作り方をしていただいたら、こんなふうに形に本当にし てくださるんだと思えて、もっと勢い付いて回答できたかなあというような思 いがあります。前と後があればきちんとこう繋がると、次のお母さんたちもや りやすくなると思いますし、当時もやりやすかったと思います。
委員	調査票 1 の表 7 行目に就学前もしくは就学中のお子さんがおられる世帯の 中から無作為にということなんですが、例えばこれは市内の幼稚園保育園や小 学校から均等にアンケートに回答いただくのか、満遍なく市内を広くご回答 いただくかどうなのかなと思いました。 私の経験上、これだけのページ数があると、教育とか子育てとかに関心のある 方ということを見込みながら行い、よりよい回答が得られるのではない かと思います。特に調査票 1 は前回 5 割を切っております。回収率も踏まえ、 私の個人的な考えなのですが、そのあたりはいかがでしょうか。
米崎子育て政策課 長	そういったご意見もあると思いますが、住民票から情報を拾っておりま して、保育園幼稚園に入っているということは紐づいていませので、無作為 ということになります。
委員	一般的なアンケートはそういうものですか。 例えば、先ほど委員が言われましたように、あえて各園から、各小学校から っていうのはありえないんですね。こういうアンケートはないですね。

米崎子育て政策課長	そうですね。
里主査	補足で説明させていただきます。 各エリア毎であったりとか、年齢に関してはデータの中から隔たりがないように分配することは可能ですので、その辺り可能な限り均等に行き渡るように調整はさせていただきたいと思います。 また、課長が申し上げたとおり、園毎というのは難しいところですので、今後の検討とさせていただきたいと思います。
委員	一枚紙の方に、例えば調査票1だと4000サンプルって書いてある。これは4000っていう人にアンケートを配ってということですよ。 回収率はどのぐらい見込んでいるのですか。
米崎子育て政策課長	前回は48.2%なので、それ以上回答があればと考えております。
委員	1から4まで全部、大体50%ぐらいの回収があったらいいな、ということですね。
里主査	補足で説明させていただきます。調査票3、4に関して、今回の新たな調査項目、対象者でございます。調査票4については18歳から30歳まで、これに関しては、おそらく低い回答率になるのではないかと予想しております。他市の事例を見ましても30%を切っていたり、お答えいただくのが難しい状況にある方もいらっしゃると思います。
委員	私、仕事の関係で、つい最近県内の小学生から高校生まで権利擁護のアンケートをやりました。その時も紙とウェブで両方準備したのですが、中学生以上ぐらいは、ほとんどの方がウェブの方を選択します。 そこで、ウェブでやる時と紙でやる時の一番の違いが、紙を渡され紙を選んだ子はアンケートのゴールがわかる。あと3枚か4枚。ウェブの子はゴールがわからないから、中学生とか途中で飽きてしまうので、ウェブ版の方には、可能でしたら、何問ありますとか、あと何問回答してくださいとか出ていたら、子どもも飽きないかなと。ただ、逆にそれがあるからやめる子もいるので、どっちを取るかになるんですが、ゴールが見えた方がよいかなというところがあります。 それと、調査票3、4がすごく気になったんですけど、先ほど申しましたように、ウェブ版のフォーマットは資料として確認できないので、やっぱりこういう会議の時は、この紙版が丸々ウェブ版に行くわけじゃないと思うので、ウェブ版のフォーマットも確認しないといけないと思いました。 データの資料の配布っていうのを、今後、必要になるかなと思います。
里主査	ウェブ版の方が、まだレイアウトができておりませんので、今日この場でお示しできなくて申し訳ありません。今後は調査前に事前にお示しできるように

	したいと思います。
委員	14 ページの問 26、26-1 の情報を十分に得られていると思いますか。」「どのような情報が不足していると思いますか。」というところなんですけど、情報が入手できてないっていう人は、情報が足りないからできてない場合と、その情報を手に入れる方法がうまく機能してないっていう場合と、私は二つあると思うんです。今回は情報の中身が足りないっていう方しか聞いてないと思うんですよ。そのあたりはどうかと思いました。 それから前に戻って、10 ページのところに、問 18 に病気で幼稚園等の教育・保育事業を利用できなかったことがありましたか、あった場合は病児保育施設を利用したいと思いましたか、という問に関して、答えは思ったと思わないですよ。回答の選択肢が、利用したい、利用したいと思わないとなっていますが、問いが過去系であれば、そのとき思ったとは思わなかったと答えるのではないかなと。その次は、1 に丸をつけて利用したいと思ったという人は、どういう場所であればいいかと続くと思うんですけど。 それから、15 ページです。問 30 のところで、「子どもの地域との関わり」の中に、9 番の項目「登園拒否・不登校などの問題」が入るのは、どうかと、他に入れることがないからなのかなと思ったんですけど、これがよくわかりませんでした。
米崎子育て政策課長	こちらについてはどこがいいか、例えば、子ども自身のことのところがいいか検討させていただきたいと思います。
委員	今回のこの計画を作るための調査ですが、以前部長が言われていた下関版子ども大綱、これも含めて作っていくというもので理解していいですか。
山田部長	はい。
委員	それで、一応この 12 歳から 17 歳までの分と 18 歳から 30 歳までの分、ちょっと見て思ったのが、12 歳から 17 歳までの 8 ページのところに、「あなたが大人になった時、どのようになっていると思いますか」という問とリンクする形で、18 歳から 30 歳の「あなたが 20 年後はどのようになっていると思いますか」という問があります。 気になったのは「大人」になったっていう表現がすごくファジーで、例えば 18 歳から大人という認識を持っている子どもさんもおられれば、やっぱり 20 歳とかあるいはもっと上というふうに思ってたらしやる子どもさんもいると思います。もし比較するのであれば、こちらは 20 年後と明確になっているのであれば、合わせて 20 年後でもいいのかなと思います。検討いただければと思いました。
米崎子育て政策課長	はい。
委員	放課後児童クラブの利用に関するアンケートの中身じゃないですけど、

	1,500 サンプル無作為抽出、先程、住民票から無作為にとりましたが、こちらは住民票にあるんですか。
米崎子育て政策課長	申し訳ありません。こちらについては利用者からです。
委員	では、子育ての方でもその方がいいと思ったんです。これだけの量をきちんと書いてくださると考えると、無作為よりはある程度、はっきりした子育て世代にするべきでは。ちょっとこの辺が引っかかっています。こっちが無作為の抽出で児童クラブは無作為じゃないことになると思いました。
委員	児童クラブは待機児童いないんですか。
米崎子育て政策課長	おります。
委員	今回の配布児童の対象にならないのですか。
米崎子育て政策課長	入会児童のみになります。
委員	待機児童ということは、入りたいと言ってるけど入ってない。そういう方の意見も大事じゃないですか。それは除外し、入ってる人だけのアンケートでいいのかどうかと思いました。待機児童がいなければ問題ないんですが。
委員	調査票1の2ページの問9の「現在の暮らしの状況についてどう感じていますか」という問いに、精神的にどう感じているのかとか、経済的にどう感じているのかとか、括弧を入れるとかしてはどうかと。ざっくりとしたままでいいということもあるかもしれませんが、そういう風に苦しいと感じておられる方もおりますので、どうかなと思いました。 それと、問13の1か月当たりの家賃というところで、仕事柄、家賃や共益費等をよく確認するので、共益費を入れるとか入れないとかっていう場合もいらっしゃるのかなと思いました。 3ページの問14からどういう状態で働いているかっていう問いだと思うんですが、今、派遣で勤めてらっしゃる方、派遣の中でもフルタイム、パートタイムがあります。社に直接雇用されている方と、派遣の方はかなり給料面とか差があって、勤務が数年毎に変わったり契約が切られたりとか、そういう方も結構いらっしゃるので、派遣のくくりも気になりました。 それと、24ページ問55なのですが、経済的な理由で、どのような経験をしたことがありますかということに対して、公共料金等家賃はもちろんあるのですが、通信料でも最近携帯電話、インターネットを契約されている方が多く、インターネットが一番とか、それを優先して他のところに回ってない方いらっしゃるので、そういう質問があってもいいのかなと思います。 あと、教育費、これ授業料とか、保育料とか、塾代とか給食だとか、その辺の支払いができず困ったっていう方も結構いらっしゃるのでどうかなと思い

	ました。
米崎子育て政策課長	ご意見ありがとうございます。
委員	放課後児童クラブの件ですけど、通っている方の通ってからの中身ですよ。もちろんこれは大事です。 でも、私はお母さん方から話を伺う中で、入る前の手続きの不満を耳にするんですよ。例えば、申し込みから1か月先じゃないと利用できないということがあるんですよ。 幼稚園では預かり保育をやっているのですが、急な場合はその日にうちの子どもお願いしますっていうお話を受けるのですよ。やっぱりそういうことがありますよね。突発的に下の子に熱が出たと、お母さんが急に何かしないといけない、行かないといけないとかあるんですよ。 だから、小学校の場合もその辺の対応を、今日の今日は無理にしてもせめて1か月先、2か月先じゃなく1週間とか3日前とか、その辺を変えて欲しいというような、そういうのを聞く内容を入れていただければ、若い保護者方の意見を酌み取れると思うんですよ。入る手続き、入る際の関係もあった方がいいのではないかなという気がします。
委員	サンプルの抽出方法の件なんですけど。調査票1について保育園や幼稚園に協力してもらうというお話が出ておりますけど、その場合、数は少ないと思うんですけど、そもそも保育園に行っていないご家庭が、アンケートをする権利がもう最初からなくなるということになります。調査票1の抽出方法について、私は市の方が想定している住民票からの無作為抽出でいいんじゃないかなと、皆さんと意見違いますけど、思います。 それと、調査票3の7ページで中学生・高校生にアンケート取らせることについて、例えば問22表になった質問があって、1234 あったら日本人は2と3が好きなので選んでしまいがちなことと、中学生にこの2とか3を入れてしまったら、やっている途中でぼやけてしまうんですよ。だから、ここは何のデータを取りたいかによって変わってくると思うんですけど、可能でしたら、思い切って2と3を切って、例えば一番初め「自分に自信がある」だったら、自分に自信があるか、ないかぐらいにしてあげたほうが、子どもたちは答えやすいのでは。それが今度は7ページの下にいて、今度5個から選ぶとかなってくると、もはやわからない子も出てくると思うんですよ。 だからこの辺をちょっと思い切って、ファジーなところはもう切ってあげた方が、子どものわかりやすさを考えると作り方としてはいいかなと思うところあります。
委員	児童クラブなんですけど、今かなり放課後等デイサービスが増えていっているんですよ。児童クラブに行っていたけれども、そこで対処ができず、放課後

	デイサービスに行きましたっていうことで。こっちの方は、放課後児童クラブの抽出に入りますか。
米崎子育て政策課長	入りません。
委員	障害を持つ子どもたちはそういう枠に入らないとなると、計画からこぼれてしまうっていう可能性はありませんか。結局、児童クラブに所属できなくなっているいろいろなことがあって放課後等デイサービスの方に行った子どもたちは対象外になります。今どれぐらいの子が行っているかはわからないから少人数になるかもしれないのですけども、そのところはどうか、と思っています。
米崎子育て政策課長	調査票2については、今、市が設置している児童クラブに関してのことになり、それをご利用されるにあたっての内容となっております。放課後等デイサービスは民間でされており、利用の形態、利用要件等も異なり、児童クラブとは別のものになります。
委員	市で把握されてないんですか。
米崎子育て政策課長	“For Kids” プランには入らない形になります。
委員	入らなくてよいのですか。
米崎子育て政策課長	あくまで児童クラブが対象であり、放課後等デイサービスについてはもしかすると別の計画の対象かもしれませんが。
委員	調査票1の中に、児童クラブの枠外になりますよっていう言われた待機児童の子どもたちについて、こちらの中にまぜ込むということは可能でしょうか。やっぱり、そういうこぼれおちた子どもたちも拾うための“For Kids”がいいんじゃないかと思います。
里主査	説明させていただくと、調査票2については児童クラブに特化したアンケートになっておりまして、言われるように、デイサービスも市の子どもにとっても重要なサービスである認識はあります。調査票1の中で、今までは未就学児が対象だったのですけど、今回から小学生までとなっております、この調査票の中で、具体的な施設名はないのですけど、例えば、相談先のその他のところでデイサービスが挙がってくことで、把握をしていけるのかなと考えております。
委員	やっぱりデイサービスの利用の数がかなり増えているので、項目の一つに名前を入れておけば、やっぱり利用している人がいるなということが反映されないかなと思います。民間だから入れないは、ちょっと違うんじゃないかなと思います。
里主査	民間サービスであっても、子育て施設の施設充実にとっては大事なサービスの一つですので、設問の中で項目として出すかどうか検討していきたいと思います。

木村福祉政策課長	放課後等デイサービスについては、私ども福祉部の障害者支援課の方で、障害児の福祉計画というものがあまして、こちらの計画の中で考えております。先ほど米崎課長が申し上げたように、こども未来部では放課後児童クラブと放課後等デイサービスを分けて考えているのではないかと思います。
委員	今のお話なんですけど、例えばこれで19ページのところに、小学校就学後の放課後の過ごし方について伺うところがあるので、自宅とかいろいろある中に今言った放デイも入れられたらどうですか。無作為で抽出される中で、お母さんがどこにつけていいのかわからないとなると、ちゃんとあればいいのかなと思うのですが。
米崎子育て政策課長	ありがとうございます。
委員	調査票2の件で、いろいろ意見が出てると思います。先ほど待機児童の保護者の意見を反映できるような体制をとるというご意見もありましたし、放課後等デイサービスを利用されているお子さんのいる世帯を対象にできたらというアンケートについて。このアンケートは、放課後児童クラブに関するニーズを把握することを目的としておりますので、当然利用している人はもちろん、よりよいクラブになって欲しいというのは、親の願いであり子どもの願いであると思います。でも待機で、入りたいのに入れない部分があるという現実があるわけであり、1点は、待機児童はこの市内でどのぐらいいるのかなということをお伺いしたい。もし可能であるならば、このアンケートを広く出して、利用されているお子さんもしくは利用を希望されているという文言を加えて、アンケートの幅を広げることはできないのかと、いうことをお尋ねします。
米崎子育て政策課長	例年5月1日現在待機児童の発表しておりますけれども、令和5年の5月でいくと96人です。年度末にかけては、減っていくような状況でございます。また、提案いただいた件については、検討させていただければと思います。
委員	市が行うアンケートについて、ちょっと感想を申し上げます。このアンケートを始めたときびっくりしました。忙しいのに何でこんなアンケートなのにと、思ったんです。児童クラブを通してこれを保護者に配布します。これ以外にも、学校もたくさんいろんなプリントがあり最近ではメールもあるんですけども、児童クラブも配布物がある中で、比較的私たちは、このアンケートについては、児童クラブに児童を迎えに来られた保護者に、できるだけこのアンケートお願いしますという感じで申し上げたりします。結果として、70%以上の回収率ができてるということを踏まえて、ありがたいことだなというふうに思っています。 もう一つ、特に今年感じますのがアンケートをもとにして、児童クラブの運営について改善を図ろうとしていることです。人手不足で子どもを守るための支援員がいなくて、現在募集してますけどそれでもまだいないという中で、アン

	ケートをもとにして、夏休みは拠点で対応するとか、あるいはできるだけ支援員の子どもに関わる時間を多く取り、子どもをしっかり守っていけるために、現場のいろんな事務仕事はできるだけ削ろう。削った分は別で集約して行くと対応しておられることは非常に現場にいて感謝をしています。そのことも含めて、アンケートは大変ですけれども、必要性を感じています。 しかし、児童クラブは、今回たった3枚のアンケートですから、アンケートに答えてくれると思います。確かにこの調査票1の方については、もらっただけでもうたくさんという感じがあります。
委員	アンケートの基本的なやり方として、4点あって、一つ目が検証した仮説の設計っていうところがまずあって、次にアンケート項目への落とし込み。三つ目にアンケートの実施。最後、それをどういうふう施策に落とし込むのかっていう、4点あるというふうに思っています。 一つ目の仮説設計っていうところが、この項目、今議論されていないなと思っています。具体的に言うと仮説っていうのは、例えば、この中でこういうふう経済的に困窮する人がいる世帯が多くなっているだろうとかですね、あとは、この児童クラブを利用しているんだけど、支援員達が人手不足になっているだろうとかですね、そういう仮説があって、じゃあそれをどういうふうに項目で検証しようかっていうアンケート項目があります。 今回の調査票とかを見ていると、質問数が55もあるので、いくつか仮説があるんだろうというふうに思うんですけども、その中で、市として最もこのアンケートで検証したいと思っている仮説があれば、その点について伺いできればと思いますが、いかがでしょう。 逆に言うんですけど、その部分の仮説立てがしっかりしていないと、このアンケートを取ったとしても、何の施策にも落ちてこないっていうことになりますし、逆に言うとその仮説のところが、この保護者ですとかアンケートを答える方に提示されていれば、それに基づいて施策がこういうふうに落ちてきたねという説明なので、一番難しいところではあると思うんですけども、その部分のところが、市として今考えられたこのアンケートなのかどうかっていうところは、お伺いしときたいなと思います。その点について、ご意見があれば伺いたいなと思います。
米崎子育て政策課長	具体的にこの設問がこの仮説だとかっていうことは今お答えできませんけれども、計画の位置付けとしてですね、子ども・子育て支援法の中で、教育・保育、地域子ども子育て支援事業の提供体制の確保、あとは、子ども・子育て支援法に基づく業務の円滑な実施に関する計画を立てましょうというふうに、例えば、この地域にどれだけのニーズがあって、どれだけのものを確保しなきゃいけないかっていうところを、この調査で、見ていきたいというところでございます。

里主査	補足させていただきます。一番重視するのは、担当としての意見もあるのですが、57番の下関市が子育てしやすい街だと思いますが、こういったことってとても大事だと考えております。それに続いて、58番で充実を期待するのは何か、このあたりで今後こういった施策を考えていったらいいかを考えるところになります。 今回、庁内各課にこのアンケート項目、意見をいただいているのですが、結果に関しても庁内各課に照会をかけ、仮説というのはおそらく担当課からいろいろな形で出てくるものだと考えております。中でも担当によって思いが違ったり、おそらく、仮説に関して、すり合わせまではしていますが、このアンケートではどうしてこうかっていう中で、この項目でこう答えてきたら、そういうことがわかる、という話はしております。具体的には整理できていないのでお話しはできないんですけど、それぞれの担当課ごとのあらゆる仮説が今出てると思います。結果が出たらそれを整理して施策に生かしていく形になると考えております。
委員	ありがとうございます。 おそらく審議会の意図としては、下関の子育て環境をどうしていくかっていうところを考えるために皆さんお集まりいただいていると思っています。アンケート項目の議論というよりは、各課から出てきた仮説について皆さんの意見をいただく方が、建設的な議論ができるのではないかなと個人的には感じました。 あと、先ほどからも少し議論に出てるんですけども、やっぱり市が行政として、このアンケートを作成します、親世代に答えてもらいますってなった時に、これはせっかく各家庭側との繋がりをつくる、もしくは繋がりを開発するための接点の一つだというふうに僕の方は捉えています。今の感じだと、どっちかというとして出て終わりって感じになっちゃうので、このアンケートというツールを通して、もう少しコミュニケーションを図るためのツールという位置付けで何かやっていくと、変わってくる部分があるかなと思いました。
会長	アンケートを取った以上、終わりではなくて、自分が書いたことが活かされるということが大切で、これだけのものを書いてそれで終わりというだけではだめです。 市の皆さんたちの中には、これを完成させたり市としてここまでやっていきたいという何か目標というのがあると思います。一般的には、子育てを一生懸命やってる人には、今が、今しか見えてない。将来この子が20歳になった時にこうなりましたでは遅すぎる。今どうなのかということが、やはりすごく大事なことで、それがわかるようにアンケートの意味がはっきりわかる方が、書く方もまじめに書いてくれるように思います。 それと気になることがあります。調査票の3、4について子ども自身が見ら

	れたくない項目あるとき、それは子どもだけが見るものということで良いですか。例えば、自宅に届いたときに親がアンケートって何だろうって見てしまう。子どもの名前で来ても、なにこれってことはないですか。
米崎子育て政策課長	調査票 3、4 の子ども若者本人宛になっておりますし、例えば開封されたとしてもどのように回答したかについては、ウェブで答えたり、そのまま郵便で送っていただければわかりません。ただ、どういうふうに答えたのって親に聞かれることはあるかもしれません。
会長	今の時代、いろいろ見えないところで、起きることがあります。特に調査票 4。18 歳から 30 歳であれば、自身で見ないでといえるでしょうが 12 歳からの調査票 4 は、微妙な時期で親からしたらまだこどもで、1 から 10 まで見てしまうこともあるということを考えていますか。
里主査	アンケートの表書きにはですね、あなたが書いた内容は親や先生に見せる必要ありませんとは明記しています。しかし、おっしゃるように、子どもにとっては親が絶対的であったりすると思うので、ここに書かれた内容より親を優先してしまうことはあるかもしれません。 ただ、今後のこのアンケートのやり方、このような小学生とか本人に聞く内容については検討していかなければいけないかと考えております。 現時点ではこれを郵送することを予定しております。
会長	そのようなこともあるということを作る方、出す方は考えておいた方がいいということです。 ほかに意見はいかがですか。
委員	調査票 3、6 ページ、7 ページについて、この項目は、中学生、高校生と一番思春期で多感な時期で、この設問項目っていうのは、肯定的に答えればいいけど、自己肯定感とか有用感かも含めて、とても低い回答が出てきた場合には、中学校、高等学校にフィードバックされますか。 やっぱり中学生・高校生の時期に一番悩むんですよ。自分の生き方を含めて悩んで、極端な話死んでしまうことだってあります。意図して、この項目をここに掲げておられて、市としては、ショックな回答の数が出てきたときに、どうするのかというところをお聞きしたい。中高校生は、本当に悩んで悩んで、苦しみながら過ごしている生徒がたくさんいます。そういう生徒をたくさん見ておりますので、この項目については非常に大切だなと思っておりますし、これが、非常に不安視される場合には、中高との連携というのはあるんでしょうか。
米崎子育て政策課長	誰が回答したかはわからないようになっていきますので、とても心を痛めているお子さんがいても、この子が危ないと中学校高等学校にお教えすることはできません。この項目を聞くことはこども計画に入ってますし、教育委員会の方ともこのデータに基づいて、こういった問題を抱えている子がいる、こういう

	問題があるということについて新たにできるプランの方で共有します。このプランは全庁一つになって作るものですので、プランには、回答結果を当然反映するものと考えております。
委員	ネガティブな回答になった場合には、市教委とも連携をしながら、例えば各中高の校長を集めて、何人から何%の回収率があった中で、このような現状はあることを周知する。そして、生徒の健全な育成のために、学校の取り組みと全下関市とで連携をとるということですね。
米崎子育て政策課長	市教委とは連携しております。
委員	話が戻るのですが、さんからのご質問を受けて、アンケートの目的についての、一番知りたいことは一番最後に書いてある、下関市が子育てしやすいかどうかというところだと話されてたと思います。この一番大事なところが一番最後にきていると、この長いアンケートをした最後でちょっと力尽きてしまうのではないかなと感じます。例えば、最初に下関市が子育てしやすい街だと思いますかというのが、設問の1問目にあれば、これを聞かれてるんだな、このための、これから続く、設問は、それに対するアンケートだというのが理解しやすいのかなと考えました。最後の質問にしていると思ったのですが、力尽きて書きたいことが書けなくなってしまうのはいかなものかと個人的にありました。 また、委員の学生生活に関する質問について。質問をちょっと拝見していったときに、資料4の8ページ目の時、どういう大人になっていると思いますかというところがありますが自分の理想を聞かれていると思うんです。例えば、市として政策に繋げていこうと考えていると思われるので、ここはどのようになりたいと思いますか。そういうふうには自分は生きたいって、こうなりたいけどなれない、だからそう思わないに丸をつけようということも出てきてしまうかもしれないので。いたいと思うのは希望なので、自分はできないけどこんなふうには暮らせたらいいなというのが答えやすくなると思うんです。そしたら、そう思うっていう例が多い項目の政策に力を当てるとか、生活環境を整えていくという政策に繋がれることができるんじゃないかなと。
委員	調査票1に関して、25ページ、問58ですが17項目質問があつて、丸三つまでではちょっと少ないと思いました。 参考までに教えていただきたいんですけど、前回、50%弱の回収率ということで高いと思いました。回収率を上げるためにしたことがあれば、教えていただきたいと思います。
米崎子育て政策課長	未回答の場合はお出しく下さいと督促を行ってます。
委員	調査票3で、さっきのお話の中、自分で書きましようということになるんで

	すが、1 ページ目の答え方についての中でアンケートのやり方や言葉や文章の意味がわからないところは大人にききましょうとあります。わからないところは今の子どもたちは検索ができるんで、聞きましょうとすると、中を見られてしまうかもしれません。書いた内容をうちの人に見せる必要はありませんとあるので、この辺がわかりにくいなと思います。 さっき問 50 の下関は住みやすいと思いますかという話が出てたんで、下関は住みやすい町だという思い込みのもと、回答するということもあると思うんですよね。出だしのところで、下関は住みやすい町ですが、これより良くするために、の方が、前向きな気がします。一番後ろで、思いますかって聞かれたら何かマイナスのイメージを持つような気がします。そうじゃなくて、一生懸命頑張ってる下関市、今まで住んでる人たちの中でもいい街だと思っている人はたくさんいるので、市としても強気に出てみて、下関は住みやすい街ですって、頭のところでいってみてはどうかと思います。
委員	委員がおっしゃいましたように、特に調査票 1 のアンケートを送るときに、このアンケートのおかげで、例えば市の子どもの政策のうち、こういう政策、こういう政策、こういう政策ができましたというものを 1 枚つけて送られたら、そうか私も出そうって、そのようになると思うんですよね。 ここ 1 年か 2 年間で出した新しい政策を掲載して、1 枚添付されたらどうですか。そうすると市民も市が頑張ってくれてるんだっていうところがよくわかると思います。市民の皆さんが市議会を注視しているわけではありませんので、具体的に書かれたものを 1 枚入れたらどうですか。それとさっきありました下関は住みやすい町ですから、というのをまず一番に持ってくる。それがいいかなと私も思いました。 以上です。
山田部長	アンケート自体についてわかるように鑑をつけたらどうかとお話をいただきました。実はアンケートの上のところに書いてあるのですが、これだけ見て、じゃあ、やろうかっていうようにはならない。皆様のおっしゃる通りだと思いますので、整理して 1 枚つけたいと思います。 その辺りで、十分なフィードバックはできないのですが、アンケートに答えていただく方のモチベーションを上げていただくために、そもそもこのアンケートの結果、このような形でここに反映されるんですよっていうのがわかる形に、ぜひともしたいと思います。よろしいですか。
会長	ありがとうございます。 いらっしゃる皆さんたちのご意見は、このアンケートが効果的に次の政策に使われて、出した人たちが、本当に下関が住みやすい街だと実感できるようになることですから。どこのアンケートでも難しいかもしれませんが、だからこそ下関のこのアンケート用紙が来たときに、開けてみて面白そうだから書

	いてみなくちゃって、思うようなものが良いですね。今回書く人たちは、60代70代ではありません。その方たちが、面白いねっ思える、一番最初に出会うページが大切で、そういう表紙を作っていないと思います。
委員	先ほどから出ていた放課後等デイサービスのお話について。今、発達センターを卒園される年長さんが、来年度に向けて、地域の学校の児童クラブがいっぱいだから、放課後等デイサービスをご利用になったということについて、今市内のデイもいっぱい、待機になるというような状況です。もちろん、地域の児童クラブを利用できたほうがいいなと思うんですけども。 調査票2の児童クラブのアンケートについて、これは保護者が書かれるとは思いますが、実際に子どもたちがその通っている児童クラブについてどう思っているか、例えば、センターを利用している子に邪魔をされて嫌とか大変みたいな意見があれば、そういうことを子どもから聞ける項目があってもよいかなと思います。
委員	今のご意見を聞きながら本当そうだなと思ったのですが、先日、卒園児と話をしていたときに、子どもたちの中にすごく学校への不満とか言いたいことがあるんですよ。 何でそんなにあるかと聞くと、例えば、高校生の子がコロナ禍が始まったときに、白いマスクをと学校から言われ、お父さんがずっと探したけどなくて、市内中回ってもなくて最後に肌色マスクが見つかり、お父さんありがとうって言ってつけて行ったら、学校の先生はそれ白じゃないと言ったと。それはおかしいですよ。何のためにマスクをつけるのか、お父さんはどんな思いで探したのって。子どもが、園長先生、私はどうしても学校の先生が信頼できないということで、言うんですよ。 ほかにも思いもしないようなこと、例えば小学校のジャグルジム、それを一年生は危ないから一段目までと言われる。保育園じゃ上まで登っていたのとか。小学校の制服を着たときの名札、暑くて脱いだら下のベストにも名札、さらに暑くて脱いだ後の服にも名札が必要。三つはおかしいよねとか。こういう説明がつかないようなルールを押し付けられていると感じています。 子どもたちが、そんな何気ない日常の中で、いろいろな形で、だんだん大人に対する不満だったり何かこのように抱えている。インクルーシブ、認めて包み込んでいくのも大切ですが、どこかがおざなりになっておるんじゃないかというような気がします。そのような不満みたいなものも、この最後の自由記述のところに書いてくださいっていうのもよいのでは。保育園に対して、幼稚園、認定こども園、それ以外も意見があれば、どんどん書けるような堅苦しくなく楽しく気軽に書いてもらえるようにしてはどうですか。 それと、以前、ある新聞で、言葉について、若い世代と私たちはもう違うという話がありました。9時10分前って言ったら8時50分と私たちは思い込ん

	でいますが、今の若い人は、9時10分よりちょっと前だと思っていて、扇風機でも、ゼロの次は弱があつて中があつて、そうすると弱は0の上だと。だから、このアンケートでも、程度とか、概ねとか、このような言葉遣いで果たして意図が伝わっているかどうか。言葉がどんどん変化しており、こちらの常識では考えられないくらい変わってるってことを理解した上で、具体的な数字を入れて間違わなくて済むようにした方がよいと思いました。 それと最後に、4ページの保護者の方の関係で、家を出る時間、帰宅時間とありますが、看護師をされてる方、あるいは会社によっては3交代があるので、そういう方の自分の勤務体制のようなものも記述する欄があってもいいかなと思いました。
会長	ありがとうございました。 いろいろ意見が出ました。事務局の方、よろしくお願いいたします。
米崎子育て政策課長	事務局で、委員の皆様より頂きましたご意見を整理し、調整していきたいと思います。紙面の関係もありますので、一任して頂き、委員の皆様には速やかに最終版を送付するようにさせて頂いただければと存じます。
会長	はい。皆様それでいいですか。 では、次は2月ですか。
米崎子育て政策課長	2月に「令和6年度特定・保育施設の利用定員設定（予定）について」を議題として、審議会開催を予定しております。その際に、もご報告する予定でございます。 時期が近づきましたらご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。
会長	それでは以上で閉会いたします。皆様お疲れ様でした。